

第3回 YERP 研究会

2009年5月15日(金) 15:00~17:40(予定)

関西学院大学大阪梅田キャンパス K.G.ハブスクエア大阪(10F 1002号室)

企画者: 岩木 信喜(岩手大学)

森本 文人(関西学院大学)

本日のプログラム

1. 橋本文彦 先生(大阪市立大学大学院経済学研究科 教授) ご講演

「認識論と脳科学」

先生の自己紹介

東北大学文学部哲学科で野家啓一先生のもとで科学哲学を学ぶ。特にK. Popperからウィーン学派を扱う。大阪市立大学文学部哲学科では、内井惣七先生のもとで形式論理学とその応用について学ぶ。特にR. Carnapの帰納的確率論を扱う。また、神野慧一郎先生や小林道夫先生からもそれぞれの立場からの科学哲学を学ぶ。大学院修了後、フリーランスのプログラマー、コンピュータ専門学校講師(人工知能・C言語・UNIXなど)、関西大学社会学部非常勤講師などを経て大阪市立大学経済学部で経済情報論担当助手。現在は大阪市立大学大学院経済学研究科で行動情報論の教授。大学院ゼミでは、なぜかアリストテレスの「ニコマコス倫理学」をテキストにしています。2003-2004年には、ウィーン大学・科学理論および科学探求学部にて客員研究員。研究では、上記の私自身の専門分野のほかに、神戸のNICITの宮内哲さんらと逆さめがね実験やクロスモーダル知覚の研究を一緒にやってきました。不定期で開催する「クロスモーダル知覚研究会」を主催しています。ここでは、宮内さんら脳科学研究者、知覚心理学者、哲学者、などが集って議論をしています。

~ 休憩 ~

2. 若手研究者 研究発表

森本 文人(関西学院大学文学研究科 八木研究室)

板垣 俊(東京大学大学院総合文化研究科 開研究室)

今回の研究発表では、ERPを研究ツールとして利用する研究者がそれぞれの研究分野の中でERPがどのように位置づくのかを再検討する機会を提供したい。「なぜERPを利用するのか?」という観点で、今回は知覚・注意(森本)と社会神経科学(板垣)の分野を採り上げる。それぞれの分野において、ERPはどのように利用されているのか、一般的な研究紹介とともに、各発表者の研究がそれぞれの分野にどのような知見を提供し得るのかについても議論したい。加えて、各々の研究分野におけるERPの展望やYERPとして今後どのようなことができるかについても考えてみたい。

各発表の後、議論の時間を設けますので活発な意見交換を期待しております。